

90-1014 1197 0474615 041101197 00075420 01000707

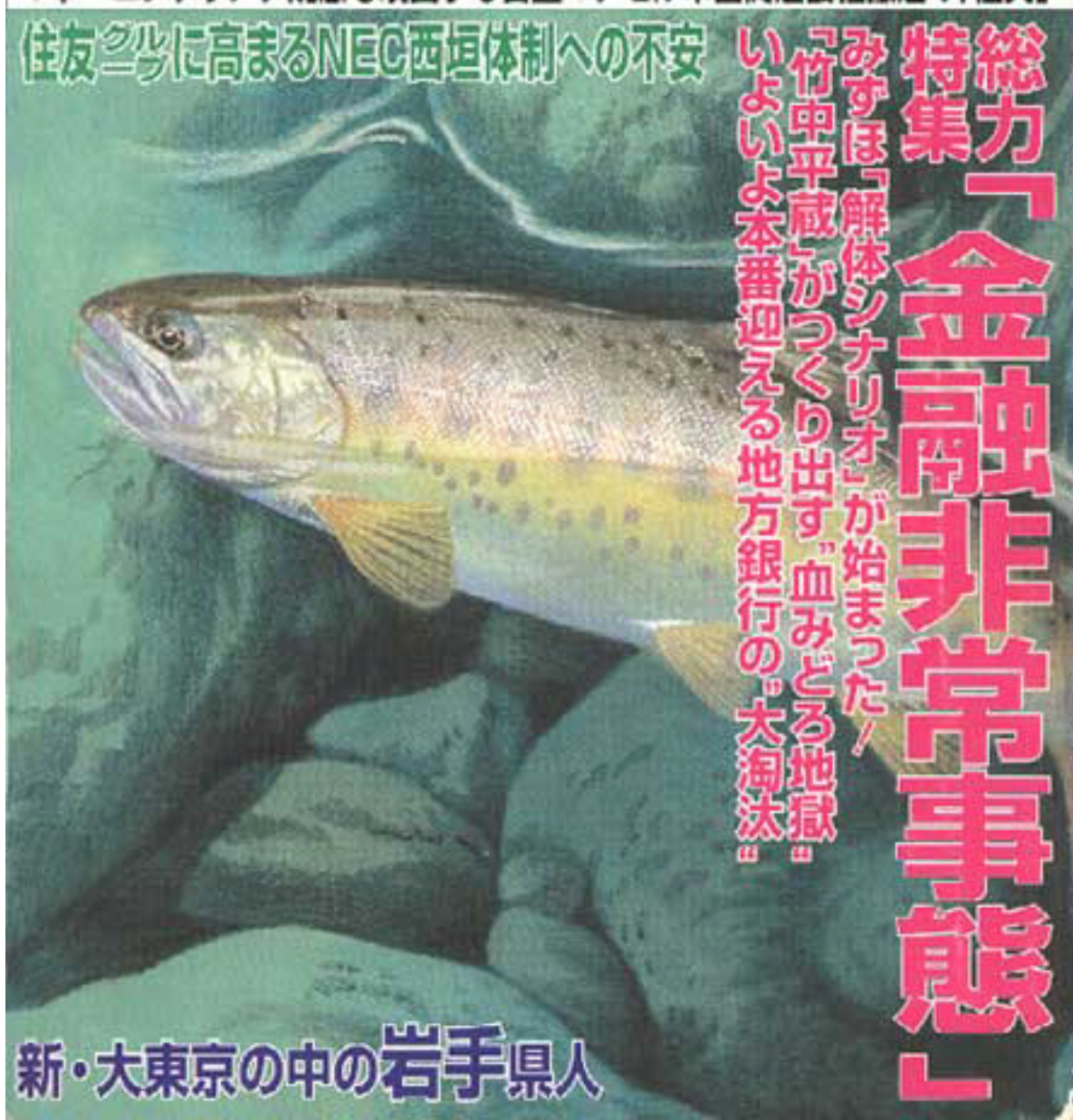
財界展望

1

建設中断ゴルフ場200コースの悲惨【西日本編】

マネーロンダリング疑惑も噴出する日立マクセル米国関連会社撤退の「怪異」

住友グループに高まるNEC西垣体制への不安



総力「金融非常事態」

みずほ「解体シナリオ」が始まった！
「竹中平蔵」がつくり出す「血みどる地獄」
いよいよ本番迎える地方銀行の「大海汰」

新・大東京の中の岩手県人

マネーロンダリング疑惑の声も出る

日立マクセル米国関連会社撤退の「怪異」

現地ではいかに裁判に発展しているという。その法廷に提出された訴状には驚愕の内容が記されていた。

ジャーナリスト

遠山信悟

長引く不況は、巨大なコン
グロマリットにも厳しいリス
トラを追っている。十月下
旬、日立グループが発表した
のは、一、二〇〇社ある関連公
社をわずか三年で九〇〇社に
統廃合するという苛烈なリス
トラ計画だった。

際限なく地盤沈下を続ける
日本経済に、いくら名門企業
といえど、なりふり構ってい
られる状態ではないことを象
徴するニュースだが、そんな
折、日立グループの主力会社
の一つ、日立マクセルが、ア
メリカに設立した関連会社の
不祥事で巨額の賠償訴訟を起

こされていることが判明し
た。しかも、この裁判、単な
るビジネス上の損害賠償請求
の範囲を超え、日立グループ
のモラルを問われる大スキャ
ンダルに発展する可能性すら
囁かれているのだという。

原告は、ロサンゼルスに本
拠を置く「ビー・シユア・カ
ンパニー」（以下、ビー社）
という日系のコンサルタント
会社だ。被告となつているの
は日立マクセル本体とその孫
会社、さらに日立マクセルの
当時の部長など……。訴訟は
提訴からすでに約一年が経過
しているが、その訴状には、

単純な取引上の賠償トラブル
だけでなく、日立グループの
詐欺疑惑やビザの不正取得、
さらに、日立マクセルが長期
的なマネーロンダリングを目
的として、現地法人をアメリ
カに設立したのではないかと
いう信じがたい疑惑までもが
記載されているのである。

なぜ、仮にも東証一部上場
企業の日立マクセルに不正資
金浄化の疑惑がかかっている
のかを紹介する前に、まずは
今も進行中の裁判の概要を説
明しておこう。

級裁判所に訴訟が提起された
のは二〇〇一年の九月のこと
だった。訴状から原告の主張
の要旨を汲み取ると――

二〇〇〇年九月に、日立マ
クセルの孫会社としてロサン
ゼルスにIT企業「ウイコー
ブ・ドット・コム・リンク」

（以下、ウイコーブ社）が設
立され、原告のビー社は、独
占的にコンサルタント契約を
請け負っていた。ところが、
ウイコーブ社は、経営方針が
定まらずに迷走し、わずか半
年足らずで日立マクセルがア
メリカからの撤退を決定。

当然、長期的なコンサルタ
ント契約を前提として、会社
立ち上げに尽力したビー社と
の間に金銭的な争いが生じ、
逸失利益や損害賠償などを根
拠に五〇〇万ドルの請求を求め
ているのである。

が、この裁判の興味深い点
はなんと言つても、訴状に記
載されたウイコーブ社と日立
マクセルに対する関係の衝撃
的な内情の暴露である。

例えば、ウイコーブ社の社
員たちは、アメリカ政府に対
して日立製作所の名前を利用
してビザ申請を行っていたと
いう。また、ウイコーブ社の
初代社長となったのは元日立
製作所に勤務していた二十代
半ばの若い女性だったが、彼
女が、ウイコーブ社設立に奔
走した日立マクセルの幹部社
員と緊密な関係にあったこと
など……。――

極め付けは、マネーロンダ
リングの疑惑である。以下、
訴状の和訳を抜粋する。
「ウイコーブを設立した被告
たちの唯一の目的は、被告A
が被告日立マクセルから横領
した資金の保管所としてウイ
コーブを利用するためであり
……（後略）」

「（ウイコーブは）不正資金
浄化計画を促進するという不
法目的のためにのみ設立する
ことが意図されており……
（後略）」

一般的な説解力をもって解
釈すれば、ウイコーブ社が日
立マクセルのマネーロンダリ
ングを目的とするダミー会社
だったと、原告は告発してい
るのである。

ビジネスモデルが不明確

ウイコープ社とコンサルタ
ント業務の契約を結んでいた
ビー社の水村秀幸代表が経緯
を説明する。

「ウイコープ社をロスに設立
する計画は、十数年来、私と
旧知の間柄にあった日立マク
セルのA部長が持ち込んでき
た話でした。二〇〇〇年の三
月頃に、準備が本格化し、A
部長は、『日立マクセルの資
金で、インターネットビジネス
をロスで展開する。日本で
すでにいくつもの企業が、こ
の会社に投資しようと設立を
待っている。とにかく急いで
会社を立ち上げねばならな
い』と慌てていたのです」
水村氏によれば、A氏は、

コンサルタント契約を前提
に、水村氏に会社設立準備を
丸投げした。ビジネスチャン
スとして、努力を惜しまな
った水村氏は、当時からいく
つか腑に落ちない点があった
という。水村氏が続ける。

「会社設立を大急ぎで進める
一方で、事業計画の方は大枠
すらハッキリとは決まってい
ませんでした。ビジネスモデ
ルが定着しておらず、要する
に、どこにインカムが見込ま
れるビジネスなのか、さっぱ
りわからなかったのです。

それでも、A部長は設立を
急いでいたので、何度もこの
まま進めて大丈夫なのかと尋
ねました。彼は『日立マクセ
ルが、五年間で五億円を投資
することは決まっています。何
も心配はいらない』と繰り返
すばかりだったのです」

また、A氏が、ウイコープ
社の社長候補として連れてき
たのは、二十代半ばの若い女
性だった。しかも、彼女はイ
ンターネットビジネスに関す
る知識をまったく持ち合わせ
ておらず、ひどく水村氏を失

望させたのだという。

が、ともかく、二〇〇〇年
九月にウイコープ社は設立さ
れた。ウイコープ社の立ち上
げに関わった別の関係者が当
時の状況を証言する。

「日立マクセルが当初の準備
資金を振り込み、さらに、A
氏が社長を務めていた日立マ
クセルの一〇〇％子会社を通
じて、一〇二万ドル(約一億二〇
〇〇万円)を振り込んで、動
き始めたのです。ただしいつ
まで経っても、仕事らしい仕
事はまったくありませんでし
た。日立マクセルの部長であ
り、ウイコープの出資会社の
社長という立場のA氏は、頻
りにアメリカにやってくるい
ましたが、彼は女社長の家に
泊まって、遊んでいるように
しか見えませんでした」

「奇々怪々な話」

私情を絡めた上に上場会社
から出資させての企業設立で
あれば、背任横領の疑いも出
てきそうだが、問題はそう単
純ではなかった。

ウイコープ社の元社員はこ
う話す。

「私は、ウイコープ社が設立
された本当の目的は、日立マ
クセルのトンネル会社として
裏金を作ることだったのでは
ないかと考えています。とい
うのも、ウイコープ社は、事
業としての収入がまるで期待
できない。それなのに、銀行
にメイン口座以外に、裏口座
を二つも持っていた……」

しかも、その裏口座には二
万ドルほどの振り込みの記録が
あったのだが、その取引も不
可解極まりない異常な内容だ
ったという。

「その若い女性社長が、サン
ノゼのあるコンピュータ会社
に対して、たった七〇ページ
のレポートを書いた対価だっ
たのです。実は、この振り込
みがなされる直前、そのコン
ピュータ会社には日立マクセ
ルが五万ドルを振り込んでい
た。彼女は、日立トラベルが
かつて書いたレポートをその
まま写したものを送付しただ
けで、二万ドルの収益をあげた
ことになっているわけです」

(同)

しかも、女性社長は、日立
マクセルがこの事業から撤退
を決めた後、会社に対して、
五〇〇〇万円の退職金を要求
したという。実際は一五〇〇
万円ほどで調整がついたそう
だが、意味不明な取引と口止
め料にも思える高額退職金で
は、周囲から疑惑の目を向け
られても致し方あるまい。

現段階で日立マクセルは、
「まさに係争中の案件で法廷
戦術に支障をきたすためお話
しすることはできません。し
かしおっしゃるようなマネー
ロンダリングに関しては奇想
天外、奇々怪々な話としか言
えませぬ。少なくとも一部
上場企業ですから透明性は保
っており、社会的な不正を匂
わせるようなことは一切して
おりません」(経営企画室)
ときっぱり否定する。またA
氏にも再三連絡を入れたが、
本号締め切りまでに回答は得
られなかった。
はたしてどちらの主張が正
しいのか。それはまもなく裁
判の場で明らかとなる。

